

いの町自主防災組織学習会の開催

3月26日にすこやかセンター伊野で、いの町自主防災組織学習会が開催されました。まず第1部として、安芸市川向自主防災会で、男女の視点を取り入れた防災活動に取り組んでいる仙頭ゆかり講師の講演後、安芸市地元有志で結成された「一日かぎり座」による避難所生活の人間模様の上演がありました。

「一日かぎり座」の演劇では、避難所で夜泣きする子ども、いびきの大きい男性、生理用ナプキンの配布、授乳の問題など、様々なシーンでいろいろな問題や課題が分かりやすい形で表現されました。

参加者からは、女性や高齢者などの視点から考える必要があるとの意見がありました。

また第2部として、NPO高知市民会議の山崎水紀夫講師によるHUG研修が行われました。

HUGとは、H (Hinajo「避難所」、U (Unei＝運営)、G (Game＝ゲーム)の頭文字を取ったもので、「抱きしめる、受け入れる」という意味の英単語と同じ表記となり、

避難者をやさしく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名づけられています。

訓練では、ペットの持ち込み、介護の必要な方、両親が行方不明となった幼児、マスコミの取材対応など、様々な避難者や突発的な事項が示され各グループで対応を検討しました。

参加者からは、避難所運営について、事前に考えておくことや決めておくことの重要性を認識できたとの意見がありました。



神谷小・中学校で避難所運営訓練実施

3月30日に神谷小中学校で避難所運営訓練を実施しました。

これは平成27年8月から、学校、自主防災組織、区長、民生委員・児童委員、ヘルスメイト、町、県をメンバーとして検討会を計5回開催し、神谷小中学校避難所運営マニュアルが完成したため、初動の体制確立について実践訓練したものです。

訓練では、鍵の保管場所確認、避難所開閉、安全確認、受付の設置、避難スペースの区割り、通信手段の確認などを全体で確認しました。



【避難所運営について】

4月に発生した熊本地震では、多くの方が犠牲になられました。心よりご冥福お祈り申し上げます。

いの町につきましては、国・県の想定で、津波浸水区域となっていないので、何より家屋の耐震化、家具の転倒防止対策といった揺れに対する備えが重要となります。

また、各ご家庭での最低でも3日分以上の備蓄品の備えをよろしく願います。

熊本地震でも震災関連死（地震による直接死ではなく、その後の避難生活での体調悪化や過労など間接的な原因で死亡すること）と思われる犠牲者の方がいらつしやいます。大規模な災害が発生した場合、被災地域が広域にわたるため、町、消防、警察などの防災関係機関の支援は限定的となります。そのため、避難所運営は、地域住民の方を主体として運営されることが期待されています。

災害で助かった命をつなぐためにも各避難所での最低限の決まりごと（鍵の開閉、使用禁止区域の設定、ペット持ち込みの可否、安全確認の方法、受付名簿の作成、災害対

策本部との連絡方法、傷病者・要介護者への対応）を決めておく必要があります。

町では、今後、各避難所を対象にマニュアル整備、訓練を実施することを予定しています。

各地域での防災活動と併せて、命をつなぐ避難所運営対策についてもご協力いただきますようよろしくお願いします。

平成27年度電源立地地域対策交付金事業

この交付金は、発電用施設の周辺地域における公共施設等の整備等を促進し、地域住民の福祉の向上を図り、発電用施設の設置及び運転の円滑化に資することが目的となっています。

町では、保育園（天神、神谷、本川へき地保育園）の人員費に活用しました。

▼事業名

保育所運営事業

▼交付対象事業費

25,354,800円

▼交付額

21,933,000円